

2020年度第1回
アキバテクノクラブ・オープンセミナー

非日常の日常

With Covid19

withコロナの時代

これからの大学教育の可能性

デジタルハリウッド大学院
荻野健一

2020年度第1回

アキバテクノクラブ・オープンセミナー

大学教育のあり方

カリキュラム・授業形態・ゼミ

教える側と教わる側の変化

留学生・キャンパス所在地・就職活動など

未来の教育の可能性

教育格差の課題・学びの再定義

コロナ禍のなかで ソーシャルディスタンスが大学に与えた影響

集団がクラスターを生み出す

2020年に入り、中国でのCOVID19の感染が世界に広がった。
当初対岸の火事と思われたが、2月には世界中での問題となる。

その時点で大学のスタンスは決まっていなかった

3月に入り、小学校から高校までが休校となり

大学のあり方が問われることとなる

パンデミック下の教育現場で感じたこと

隔離されることの弊害

2020年に入り、中国でのCOVID19の感染が世界に広がった。当初対岸の火事と思われたが、2月には世界中での問題となる。

その時点でデジハリでの対応

授業開始の延期

遠隔授業の導入

授業環境の整備

パンデミック下の教育現場で感じたこと

授業開始の延期

2020年3月新年度の準備と国の対応の中で、日本におけるロックダウンの可能性が報道される。

各大学は、1～2週遅れで前期の授業を開始する動き

文部科学省高等局より、令和2年3月24日付け「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」

パンデミック下の教育現場で感じたこと

遠隔授業の導入

デジハリでは、3月の時点で教授会もリモートで行い、早期授業開始のため遠隔授業の導入を準備した。

他大学でも4月に入り、遠隔授業の準備が開始され、4月下旬以降の授業開始を目標にデモ授業やワークショップを行った。

パンデミック下の教育現場で感じたこと

授業環境の整備の遅れ

実習や実験を伴う授業環境は、殆どの大学で実施する事は出来ず、9月まではオンラインのみの体制が取られている。

先生側も対応できず、今年度開講出来ない授業も出てきた。

これを機に9月入学の可能性も報道され、学校教育そのものの見直しも迫られている。

パンデミック下の教育現場で感じたこと

教える立場の変化

これまでは、資料や教科書から板書して、学生の反応によって、授業の進め方は修正することが出来た。

オンライン化することで、リアルタイムに学生の反応をとることが難しくなった。

更に少人数になっても、コミュニケーションのディレイ（遅延）は避けられない。

パンデミック下の教育現場で感じたこと

受講する立場の変化

今までの単位を取るための努力はどうなるか？

評価してもらうための行動はどうするのか？

課題1：双方向性を担保するためのやり取り

課題2：授業内での友人関係の変化

課題3：孤独感の解消や達成感の醸成

デジハリで準備してきた事

新しい教育のあり方の模索

2010年あたりからソーシャルメディアが普及し
デジハリ大学院でも様々な実験が行われた。

Ustreamなどクラウドを活用したオンライン講座

バーチャル空間のセカンドライフでの教育

グループウェアのビジネスモデル

オンラインの可能性

デジハリオンラインスクールの事例

デジハリでは10年ほどオンラインスクールを運営してきた。スキルや知識はオンライン化することで自由に学ぶことができる。

現在、毎年2000人ほどが学び、他大学や専門学校への教材の提供を行っている。

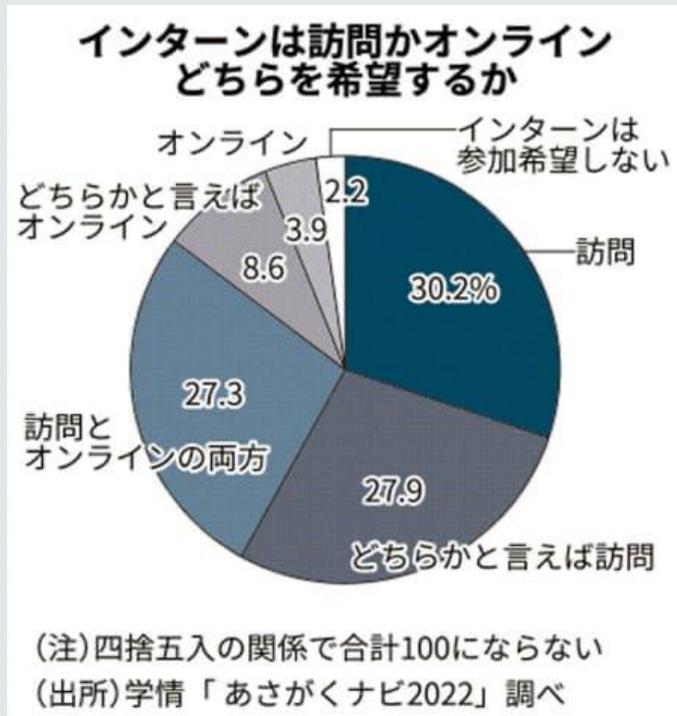
新しい教育体制の整備

遠隔授業の可能性

学習塾などは通信衛星を使った全国授業など、サービス導入は早くから行われていた。

良い大学に入ることは、その学校でしか手に入れられないものがあったからだとする、自宅からも授業が受けられるようになった今、大学の所在地の意味や入学する意味を再定義する必要がある。

これからの就職活動



現在の大学3年生である2022年春卒業学生のインターンシップの募集が始まり、事実上就活がスタートした。

企業は密集、密閉、密接の「3密」になりがちなインターンを、リモート方式の活用も含めいかに安全に開催できるかに頭を悩ませている。

これからの教育

既存の学校教育における課題創出

大学教育はどのように変わっていくのか

大学教育における格差の問題

経済格差による教育レベルの差

親の学歴・収入による学習機会の差

都会と地方での学習機会の差

大学教育はどのように変わっていくのか

大学教育のオンライン化の流れ

近年、オンライン教育に力を入れる大学が増えている。

古くは放送大学、産能大学など通信教育に力を入れる大学が中心であったが、90年代から様々な教育機関が新しいオンライン教育を模索していた。

これが今回のコロナ禍で加速するものと考えられる。



カーンアカデミーは、2006年にサルマン・カーンにより設立された教育系非営利団体。

YouTubeで短時間の講座を配信し、運営サイトにて練習問題や教育者向けのツールを提供しており、これらは世界中の誰でも無料で利用できる。



大規模公開オンライン講座 MOOC

大規模公開オンライン講座（MOOC=Massive Open Online Course）は、オンラインで誰でも無償で利用できるコースを提供するサービスで、希望する修了者は有料で修了証を取得できる。世界トップクラスの大学・機関によってさまざまなコースが提供されている。

教育環境の整備

「Coursera（コーセラ）」「edX（エデックス）」への登録者数合計は3000万人以上に達し、MOOCを利用した世界規模の高等教育プラットフォームが形成されている。

東大は日本初の試みとして、2013年9月よりCourseraで2コースを提供して以降、2018年4月現在で全14コース

（Coursera 7コース、edX 7コース）を提供。登録者数は世界185か国以上から累計37万人を超える規模となっている。

日本におけるオンライン教育環境の整備

一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会

(英: Japan Massive Open Online Courses

Promotion Council) は、2012年より米国で始まった無償教育サービス「MOOC」の日本語での無償提供及びその普及・拡大を目的とし、2013年11月に設立された非営利団体である。(オンラインで大学レベルの授業を無償で公開し、終了条件を満たした受講者に修了証を提供する)

略称は「JMOOC (ジェイムーク)」。

未来の学校

教室を出てバーチャルとリアルとの融合が学びの環境になっていく可能性が高い。

その上でリアルな学校の存在が重要な課題となる。

どこで学ぶのか？

誰から学ぶのか？

どう学んでいくのか？



学びの再定義

高等教育機関に在籍する意義と拡張性。

学びの上でのリアルな学校の存在が重要な課題となる。

課題1：人生百年時代のリカレント教育の有用性

課題2：学びを実践するための実社会との連動性

課題3：ネットワーク社会における自己実現性

ご清聴ありがとうございました

この後は、鈴木さんにお戻しします。